

<p>1 学校教育目標</p> <p>熊本県教育委員会の「令和3年度(2021年度)県立中学校・高等学校における教育指導の重点」及び「令和3年度(2021年度)人権教育取組の方向」等を中心に据えながら、生徒一人ひとりの個性を伸ばし、知・徳・体の調和が取れ、自ら学び、自ら考え、自ら行動し、たくましく生きる力を備えた将来のリーダーとなる青年の育成に努める。</p> <p>全職員は教育者としての自覚と使命感、教育的愛情と人権感覚を持ち、資質と指導力の向上に努め、生徒一人ひとりの個性を伸ばしながら、知・徳・体の調和が取れ、自ら学び、自ら考え、自ら行動し、たくましく生きる力を備えた将来のリーダーとなる青年の育成に努める。</p> <p>中高一貫教育校としての利点を生かし、効果的な教育のあり方を研究するとともに、地域との連携をより一層深め、地域に開かれた特色ある学校づくりに努める。</p>

<p>2 本年度の目標</p> <p>①全職員が資質と指導力の向上及び授業改善に努め、生徒一人一人を理解しその個性を伸ばしながら、知・徳・体の調和が取れ、自ら学び考え行動する、逞しく生きる力を備えた将来のリーダーを育成する。</p> <p>②中高一貫の6年間及び高校3年間教育課程研究を推進し、宇土校ならではの教育活動を展開する。</p> <p>③地域の小中学校等との連携をより一層深め学校の見える化を図り地域に開かれた学校づくりに努める。</p>

3 自己評価総括表

評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	自己評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	業務改善	宇土未来探究講座の安全かつ効果的な運営	新しい生活様式を取り入れた中での活動の充実	・前年度作成した次年度プランを活用 ・計画には入念な感染症対策を盛り込む。	A	コロナ禍の中、計画変更を行わなければならない場面もあったが、臨機応変な対応と入念な感染症対策により、計画を実行することができた。
		地域への丁寧な情報発信	県立中学校入学者選抜における志願倍率1.5倍	・宇土中新聞を1,2学期各2回ずつ発行し、地域と小学校に積極的な情報発信 ・年度当初から小学校訪問を実施し、信頼関係の構築に努める。	A	・宇土中新聞を計画的に発行し、情報発信に努めた。年間で延べ70校を訪問し、積極的に学校のPRを行った。
	働き方改革	風通しの良い職場環境づくり	教職員の意識改革と業務の平準化	・教職員と面談や働き方等の情報提供を行い意識改革を図る。 ・衛生委員会・運営委員会を定期的開催し、業務の精選や平準化について検討	A	・各分掌部内での業務分担の確認、コミュニケーションを図りつつ、効率的な業務の遂行へのひとりひとりの意識をより高めることが課題。 ・衛生委員会で毎月職員の健康状態、業務負担状況を確認し、指導・助言や産業医面談を行った。
教職員の健康増進及び福祉の確保		部活動の計画的な運営と積極的な年休取得	・年休が取得しやすいよう、定期的な呼びかけ ・毎月の長時間勤務者に対するアンケート及び面談の実施	A	・長期休暇等に呼びかけをしたり、取得日数が少ない職員に対しては個別に休暇取得を促した。平均は、昨年度と同等の約10日であった。 ・長時間勤務者が固定しており、業務の平準化が課題である。	
学力向上	授業の充実と学習意欲の向上	全ての生徒が意欲的に参加し、主体的・対話的で深い学びができる授業の実践	生徒の理解度・満足度90%以上の達成	・行事の精選と教育課程の工夫による授業時数の確保 ・新学習指導要領の共通理解と実践 ・一人一台端末を活用した授業の実践と研究	B	chromebookを用いた授業実践や各教科担当者の創意工夫で、生徒の授業満足度は高い。今後も生徒が「もっと知りたくなる」ような探究型の授業を追求していきたい。
	自学力の育成	宅習時間の確保と定期考査の成績向上	・宅習時間の確保(宅習時間調査で、校内平均平日:90分以上、休日:150分以上)	・学級通信等で宅習の重要性や目標時間の啓発 ・行事予定表及びワークシートを使った、生徒に見通しを持たせる指導 ・オンライン課題を含む自宅学習指導の工夫 ・課題量や提出日等、教科間バランスの確保	C	生徒に見通しを持たせ、学習に取り組ませる工夫は各学年ともできている。しかし、家庭での学習習慣ができておらず、課題を期限を守って提出できない生徒への個別のサポートをさらに充実させる必要があり、次年度は教務部主導での放課後学習会を行うこと等を検討している。

キャリア教育 (進路指導)	自己の個性と進路指導の充実	教科・総合的な学習の時間・学校行事・生徒会活動等での自己の強み発見	・自身の個性・強みを考えた目標設定度90%以上	・キャリアパスポートによる振り返り ・二者面談、三者面談での対話的関わり	B	県学力調査の「アイチェック」の自己肯定感に関する質問で、1年生は全国・県平均より高く、2年生は低かった。実態の違いはあるものの、2年生に更なる対応が必要である。
		系統的な進路学習	・コロナ禍に対応しながら100%の実施	・年2～3回の進路講話 ・インターンシップ ・パネルディスカッション ・学力推移調査の活用	B	進路講話を1回は行ったが、2回以上できるようにしたい。インターンシップは中止したが、それに代わる活動を行った。企業と関わる取り組みを取り入れたい。
	将来を見通したキャリア構想	ICTを活用したキャリアパスポートの運用	・生徒全員作成し、全てのデータを教員が共有する	・Google classroomの活用 ・毎学期の振り返りと改善	A	キャリアパスポートの運用に関しては、軌道に乗った。個別のフィードバックについて、さらに高めることができる。
		スムーズな中高接続	・コロナ禍に対応しながら100%の実施	・高校教務部と進路指導部と連携したガイダンス ・研究開発部と連携したQ講座 ・生徒会や応援団と高校生との関わり	B	ガイダンスは、実施できた。宇土中版「学びの部屋」は、実施できなかった。生徒会や応援団における中高の関わりは、計画的に行った。
生徒指導	基本的な生活習慣の確立	服装・あいさつ・掃除の徹底	全職員による生徒指導と生徒に寄り添った配慮ある対応の実践、教師の率先垂範	・教師は授業開始1分前までに教室入室 ・学年集会時の整容検査と事後指導の徹底 ・中学部マニュアルに沿った清掃活動の実施	B	教師の率先垂範については不十分であるため、もう一度4月当初の共通理解事項の確認をする。また、生徒の頭髪・服装等については、校則検討委員会と連携し、生徒の自主性を尊重できる内容にしていく。
		交通ルールの遵守とマナーの向上	交通ルール遵守率90%以上、交通事故等1%以内	・定期的な交通指導 ・啓発用のチラシの作成と掲示 ・交通安全教室の実施	B	生徒の規範意識や自己認知力が不足していることからこれまで以上に定期的な啓発、生徒会安全委員会との連携をしていく。
	自主性や社会性及び公共性を身につける	生徒会中心の行事の運営	生徒会主催の行事の企画・運営の充実、アンケートによる満足度90%以上	生徒総会、文化祭、クラスマッチの見直しと、より一層の充実	B	生徒が中心となって活動できる場面をつくることができた。今後も創意工夫をしながら、充実した生徒会活動を継続していく。
		各種委員会活動の活性化	目標の明確化、生徒自ら動く委員会活動の実践、達成感90%以上 Google classroomを活用したアンケートの実施	・生徒会執行部の主体による各種委員会の開催と年間計画に沿った活動の実施 ・各種委員会の常時活動の活性化	B	委員会によって常時活動に差があるため、年間計画を見直し、3年生を中心に生徒全員が活躍できる場を創意工夫していく必要がある。
人権教育の推進	命を大切にすることを育む指導	自分の人権を守り、他の人の人権を守るための態度の育成と行動の実践	・自他の価値を尊重しようとする意欲や態度の育成 ・他者を共感的に受容できるための感受性やコミュニケーション技能の育成	・人権作文、標語等の作成 ・ボランティア活動や地域行事への参加 ・人権教室や講演会の実施	B	・人権教室やスマホ・ケータイ安全教室により、情報モラルを学び他者を尊重する態度を養った。 ・生徒自らが体験する機会を作ることができず、行動の実践が不十分だった。
	人権教育の指導方法の改善・充実	学校の教育活動全体を通じた人権教育の推進と組織的な取組	・校内研修の充実 ・生徒の実態把握 ・人権が尊重される授業づくりの推進	・全職員による共通理解と共通実践 ・授業における、自己存在感を持たせる支援と共感的人間関係を育成する支援の工夫	B	・生徒の実態把握に努め、全職員で共通理解を図ることができた。 ・人権が尊重される授業づくりのために校内研修をさらに充実させたい。

特別支援教育	特別な支援を必要とする生徒への的確な対応	生徒の特性に合わせた支援	<ul style="list-style-type: none"> ・個別の教育支援計画及び指導計画を基にした支援の充実(全員作成) ・不登校傾向の生徒への支援と、別室の効果的な活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・全職員の共通理解を図り、環境整備に努める。 ・保護者やSC、SSWを始め外部専門機関と連携を図り、組織的な支援を進める。 ・ICTを活用した別室登校生徒への学習支援を開始 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・共通理解は図れたが、環境整備が不十分な点については保護者・専門機関等と連携し改善が必要である。 ・特別支援学校の先生を講師に職員研修を行い、支援について理解を深めた。 ・分散登校もあり、リモートでの授業に少しづつだが参加している。 ・組織的な支援が課題である。
		ストレス反応を示す生徒への支援	<ul style="list-style-type: none"> ・SCとの定期的な面談の実施 ・ストレスマネジメント講話の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校、家庭などの生活環境に起因するストレス反応を示す生徒をSCやSSWにつなぎ、ストレスへの対処方を学ばせる。 ・中2でSC講話の実施 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートなどの結果を活用しストレス反応の高い生徒を計画的にSCにつなぐことができた。 ・中2のSC講話は生徒からの評価も上々であった。毎年実施したい。
いじめの防止等	いじめの問題に向けた生徒と職員の協働の強化	いじめを起こさない学校づくり	いじめを許さない態度の育成と雰囲気づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・「心のきずなを深める月間」の取組 ・いじめ防止スローガンの策定と実践 ・教育活動を通じて得られる達成感・成就感の共有 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年で策定したスローガンを全校生徒で確認し、実践することができた。 ・いじめの早期発見や改善は概ね達成することができたので、未然防止が実現できるよう取り組みたい。
		いじめ問題に向けた組織的対応	教職員全員の共通理解 保護者との協力 関係機関との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・きらりアンケートの実施と現状把握、事案に対する情報収集と共通理解 ・保護者や関係機関への報告・連絡・相談 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒のアンケート等により実態を把握し、早急に対応することができた。 ・情報収集担当者の活用や全職員での連携が十分でなかった。
地域連携 (コミュニティスクールなど)	情報発信	地域への丁寧な情報発信	HP・ブログの改善による配信の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・欲しい情報が容易にわかるよう工夫されたレイアウト ・特に本校志望の生徒の増加につながるHPのデザインに配慮 	B	ホームページの刷新に取り組んだ。改修時期が遅くなったが、レイアウトなどの工夫がされたものになった。今後も改修を重ね、充実させる。今後他のSNS発信も整備し、情報発信を続け、志望生徒の増加につなげる。
	コミュニティスクール	学校運営協議会(総合型)の実働	運営協議会(総合型)を実働させながら、学校課題を焦点化させる。	<ul style="list-style-type: none"> ・地域と連携することで、どうしても学校課題の解決を図ることができるか協議する。 ・ICTを活用した簡便で機動的なアンケート集約体制構築 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスの流行により、紙面による協議となった。地域への情報発信、地域防犯防災対策、働き方改革等貴重なご意見をいただいた。 ・保護者への連絡やアンケート等に関して、ICTの活用は、今後も進めていく。
図書館活動	読書活動の活性化	利用しやすい図書館作り	図書館からの情報発信の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・校内読書月間の実施 ・広報誌「らいぶらりいたいむず」の定期的発行 ・特設図書コーナーや展示の工夫 ・HPブログでの情報発信 	A	校内読書月間を設け、図書の新着図書などの情報を発信できた。らいぶらりいたいむずは分散登校の影響もあり、不定期な発行となってしまう。文化祭で特設コーナーを設けた。
		読書活動の充実	生徒の読書意欲が向上した生徒80%以上。	<ul style="list-style-type: none"> ・読書計画に従い、3年間を見通して朝読書に取り組む。 ・多読クラスマッチ実施 	A	朝読書の履歴を記録し、読書活動の振り返りのしやすい状況を作ることができた。また、多読クラスマッチを実施し、集会で表彰するなど、読書意欲の向上につなげることができた。
SSH	第二期実践型、研究開発課題「未知なるものに...	UTO-LOGICを備えた人材育成の評価方法を開発する。	6年間を見通した宇土未来探究講座「卒業研究」と高校「ロジックプログラムの接続	中学卒業研究と高校課題研究を連携する機会、情報交換、共有を図る機会・方法の充実	B	成果は発表会の実施。中高の探究サイクルの共有による校内発表の相互参観。課題は生徒間での情報共有や探究の指導等、関わる機会の設定が不十分であった。

	挑む UTO- LOGICで 切り拓く 探究活動の 実践」の中 間評価に おいて、指 摘を受けた 事項の改 善・対応		探究活動のガイダンス機能及び情報共有の機会の充実	ロジックガイドブック及びGS本によるガイダンスとGoogle Classroomによる探究に関する情報共有を充実	B	成果はSSコース対象にロジックガイドブック第二版、GSコース対象にGS本2021を発売したこと。課題はGoogle classroomでの情報共有の徹底と定着度のばらつきである。
		探究活動及び探究の「問い」を創る授業の実践の見える化”可視化”教科の枠を越えた授業の開発	探究活動の過程における職員・生徒の関わり可視化と職員の変容の調査方法の開発	G Suiteを活用し、Googleドライブによる探究活動の過程の共有・情報交換を充実、探究の過程の可視化を図る。職員の変容を可視化する調査を実施	B	成果はGoogle共有ドライブでの探究活動の過程を可視化による教員の探究指導に関わる頻度が増加。課題は職員の変容を質的評価する方法の開発である。
			探究の「問い」を創る授業、教科の枠を越える授業の実践を共有する機会を設定する。	公開授業(探究の「問い」を創る授業)及び職員研修(探究活動の指導方法)を実施し、コンピテンシーベースの授業デザインを展開を図る。	B	成果は探究の「問い」を創る授業の実践報告を3月実施し、取組の発信、共有を図ったこと。課題は、探究の「問い」の活用方法が担当や授業にとどまり全体共有に至っていないこと。
中高 一貫 教育	本校独自の 中高一貫 教育プ ログラム の開発と 実施	中高接続を踏まえたカリキュラム・マネジメントの実施	6年間の系統的な学びを活かした教育課程の編成	学校経営戦略会議で具体的な検討を行う。	B	問題提起は行ったものの、具体的な議論にまで踏み込めていない。汎用的能力の育成に関する系統的なプログラムに関して今後議論を深めていく必要がある。
		中高連携した学校行事・生徒会活動の充実	学校の新しい生活様式を踏まえた中での活動の充実	・生徒会を中心とした行事の工夫と実践 ・保護者(PTA)と一体となった行事の工夫	B	コロナ禍で創意と工夫を重ね、体育祭や100周年記念式典、文化祭を同時配信等も行い、充実した内容で実施することができた。

4 学校関係者評価

コロナ禍により評価委員会を書面開催としたため、以下に委員の意見を記載する

- 「おおむね達成」の評価が多かったので、嬉しく拝見しました。
- 「交通ルールの遵守とマナーの向上」については、加害者・被害者のどちらにもならぬように、中学・高校の生徒さん及び保護者への意識啓発をよろしくお願いしたいと思いました。
- 昨年度に比べて、教職員の学校経営についての評価が高くなっていることに安心しました。部活動も大切な生徒さんの活動です。教職員が心身ともに自己管理を大切にして、休暇をうまく取得しながら「できる人だけに任せる」という業務にならないことを願っています。
- 各項目において、おおむね良好と思われる。ただし、評価が3に達していない項目については、特に対応策を考える必要があると思われる。
- コロナ禍の下でも的確で安全安心の経営をされておられ、学ばせていただきました。
- 地域に開かれた学校づくりについて、ホームページのリニューアルや宇土中新聞の発行などで、積極的な情報発信がされています。
- 挨拶運動の実施や交通ルール遵守の啓発・指導による効果が現れており、このことが今後益々地域に愛される学校となることにつながると考えます。

5 総合評価

自己評価については全職員で行い、4段階評価で平均値が3.0以上の場合をA評価としている。全項目の平均値が2.9であり概ね目標を達成できていると捉えている。特に「キャリアパスポートを生徒全員が作成し、教員によるデータの共有」に関する評価は高く、全校生徒にChromebookが一人一台貸与されたことで、情報の収集や整理、共有が容易になったことに起因すると捉えている。

今年度は、昨年度コロナ禍のため実施できなかった修学旅行や宿泊を伴う体験学習を、感染症対策を入念に行うことで実施することができ、体育祭や文化祭も、日程や内容の変更を伴いながらも開催することができた。学校生活の充実を前年度より図ることができたと考えている。また、保護者向けにYouTubeを活用した同時配信も行い、ICTを活用した学校からの情報発信にも努めた。

「教職員の意識改革と業務の平準化」についても、前年度と同様に評価がAとなっており、業務の平準化が進み、教員が生徒に関わる時間が増加しているためと考えている。

6 次年度への課題・改善方策

コロナ禍のためもあるが、家庭での学習の定着指導が十分にできていないことは大きな課題である。評価についても前年度のBからCに下がっており、解決に向けての工夫が喫緊の課題である。また、一人一台端末の全校生徒への導入や校内のネット環境の充実により、ICTを活用した新たな学びの形の模索を今後より一層深める必要がある。特に本校においては、中高一貫校の特色を最大限に生かすために、中1から高3まで教科科目別の「教材データベース」を設けるなど、学び直しや先取り学習に資するICT活用教材の検討を進めていく予定である。